

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2012.11.No183

11月号

目次

特集 全道大会報告	1
支部だより	10
[網走・宗谷・当別]	
実行委員会報告	11
[総務・事業]	
information	12

URL <http://www.h-ab.com/>



第37回 (社)北海道建築士会全道大会(函館・松山大会)を終えて

第37回 社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長

社団法人北海道建築士会函館支部 支部長 **山内 一 男**

社団法人として最後の北海道建築士会全道大会(函館・松山大会)を無事終え、36支部の会員の皆様と青森県建築士会、参加していただいた方々と応援し支えていただいた賛助会の皆様に、函館・松山支部を代表して心から厚く御礼を申し上げます。

そして、本部事務局の皆様、何かとお世話頂きありがとうございました。平成4年の函館開催以来20年、当時開催の準備をした人たちの多くは現役を退き、青年部だった人たちは記憶と資料を頼りに開催一年前から準備をして参りました。松山支部との合同開催のため、毎月一度支部会議、2ヶ月に一度の合同会議を基本に準備を進め、本大会開催にいたりました。

(社)北海道建築士会創立60周年の記念大会でもあり、テーマと基調講演の講師決定まで苦労もありま

したが、「とても良かったよ」という一言に会員一同安堵した次第です。

60周年記念大会のテーマ「Rebirth」は、昨年の東日本大震災を経験した我々建築士へのメッセージでもあります。人口が減少し縮小する町に、建築士が生まれ変わり、いかに地域にかかわることが出来るかを問う意味が込められています。戦後の復興に汗を流した建築士のように、さらなる100年に向けて、一步を踏み出す決意を会員一同で確認する大会としました。大会以降、会員の住民や町への係わり、活動が大切となります。皆さん一緒に頑張らしましょう。

終わりに、大会に寄せられた全道の建築士の熱い友情と心暖まるご支援に感謝し、お礼の挨拶といたします。



大会式典 高野会長挨拶



「江差追分」で開会



青年サミットの様子



青年サミット 針ヶ谷委員長挨拶

青年サミットテーマ 「Road to Rebirth — 歴史的町並みの今を歩く —」



青年サミット 針ヶ谷青年委員長 挨拶

青年サミット参加者



青年サミット まち歩きの様子

青年サミット会場 函館市地域交流まちづくりセンター

第37回 全道大会 函館・松山大会

(社)北海道建築士会 創立60周年



大会会場 ロワジュールホテル函館



大会テーマ
「Rebirth」

サブテーマ 「— 過去 と未来との出会い —」



全道大会前に開催された平成24年度第4回理事会

A分科会（女性委員会）



B分科会（まち歩き）



三井所会長と共に

（まちづくり委員会）



C分科会（青年委員会）





山内大会実行委員長 挨拶



高野会長 挨拶



三井所日本建築士会連合会会長 祝辞



基調講演「北の大地-その知られざる可能性を探る」
講師：手嶋 龍一 氏



吉田女性委員による
A分科会報告



島まちづくり委員による
B分科会報告



前田青年副委員長による
C分科会報告



会長表彰 受賞者の方々



懇親会開会の鏡割り



松山支部
若浜支部長による開会宣言



松山支部
高橋青年委員長による綱領朗読



表彰者を代表して
函館支部 山田氏による謝辞



勇壮な巴太鼓演奏



盛り上がる会場



函館支部
末吉青年委員長による決意表明



情緒豊かな江差追分の演奏



函館名物「いか踊り」



次期開催地アピール 恵庭支部

部会報告

総務部会

部会長

山田良彦



第37回全道大会（函館・松山大会）が函館市で開催され、駆けつけた仲間は総勢450名となり開催支部として大変感謝しております。

また、Rebirth—過去と未来との出会い—をテーマに「青年サミット」「分科会」「式典」「基調講演」「懇親会」等の準備をそれぞれの担当部会に分担してあたりました。

北海道の玄関口、JR函館駅前のホテル「ロワジュールホテル函館」をメイン会場として、前日の青年サミットは歴史的建造物で復元工事を5年前に終えた「函館市地域交流まちづくりセンター」を、基調講演は参加人数を考慮して隣接の「函館北洋ビル」を用意しました。講演会場へ限られた移動時間内の約400名の大移動、参加者の皆様にはご迷惑をお掛けしましたが、無事トラブルも事故もなく移動出来たことに安堵しました。



また、準備にあたり松山支部の実行委員の皆様には打合せのたび、遠路または悪天候（猛吹雪や大雨のときもありました）のところ駆けつけてくださりまして大変感謝しております。一度だけでしたが松山支部事務局の田畑建設様の会議室での実行委員会の開催も思い出に残ることでしょう。

全体スケジュールは勿論、リーフレットの作成や会場の看板制作も各部会、分科会担当委員会との連携も本部事務局の調整のお陰で何とか間に合いました。地元として出来ることに限界はありますが無事終了できたことに感謝しています。関係者の皆様、本当にありがとうございました。



財務部会

部会長

藪下明



大会予算、手提げ袋の準備などを担当しました。

部会単独の運営は難しく、全て他部会の決定待ちの状態です。最終段階でやっと出番が廻ってきたという感じでした。参加者へ渡す手提げ袋については、昨年の釧路大会のメーカーに対抗して同業サッシメーカーへ協力要請、カタログ入りで了解を得ました。

大会シールは、紛失防止のため支部名・名前を記入できるように工夫をしました。中身は、函館市と江差町へ観光パンフレット類の提供を事前に済ませ、あまり重くならないよう管内各町のものはやめ、道南全体を一冊にまとめたものにしました。

また、夜の飲食店マップは当日ではなく、事前に必要な支部が多いかと、本部から各支部へ宿泊先を把握し、直前になりましたが会場・宿泊先周辺の夜の飲食店情報を提供することができました。



大会予算は、60周年記念ということで、例年の本部交付金プラス特別交付金が加算され、前回、前々回などの資料を本部からいただき、内容を検討しスタートしました。しかし、基調講演の講師がなかなか決まらずハラハラしましたが、支部長に一任していた手嶋龍一氏が地元経済界の有力者のパイプにより予算内で出演が決定、ホッとしました。各部会では、かなり工夫して予算内の支出を心掛けていただいた結果、というより当初見込み参加者が約400名から450名と嬉しい誤算もあり、赤字を出さずに済みました。

函館・松山支部も協賛金を賛助会を中心に呼びかけ、何とか予算額をクリアすることができました。ご協力頂きました賛助会の皆様方に、あらためて感謝を申し上げる次第です。

また、今回の「名札プレート」は参加登録名簿と受付名簿のデータを一元化し、印刷を工夫して受付で登録内容が分かるようにしました。大会日直前までの変更も、当日の変更も受け入れ可能となるように総務部会の原田徹さんをお願いして、細部に渡る調整を行うことができました。結果、当日の懇親会参加希望者も全て受け入れて、大きなトラブルもなく、無事大会を終えることができました。

事業部会

部会長

田嶋英人



式典および講演会の企画運営を担当しました。会場の都合により開会直前のリハーサルとなりましたが、司会者のオフィスK藤本恭子さんによる的確な仕切りにより短時間で終え本番をむかえました。開始前には函館・松山の観光DVDで雰囲気づくり、そして格調高い全国大会優勝者菊地勲さんの「正調江差追分」で開会。今年で50回目となる江差追分全国大会記念ということで江差町からのご支援もあり、懇親会では「切り声」の披露となりました。いかに時間内でスムーズに進行できるか、何度もシナリオ・司会原稿を練り直し、前夜9時ころまでかかりやっとOKとなり、青年サミット二次会に合流することもできました。



基調講演は、60周年記念ということで検討した結果、北海道生まれでノーザンファームを仕事場として活躍している日曜日の朝テレビ「シューイチ」でお馴染みの手嶋龍一さんを迎えました。収容人数を考慮して会場を北洋ビルに変更、建築士会をアピールするため一般市民の参加も新聞で募集しました。

前日、会場セット、映像機器や事前入手した当日使用するデータの試写をして当日を迎えました。短時間での会場移動を憂慮していましたが、誘導案内と参加者の協力により、予定時間で進行することができました。結果、用意した400席を満席にし大成功に終わりました。参加者からは、内容は勿論テレビで拝見している印象とは違い、行動的で親しみがあり素敵だったと好評でした。後日談で、半月ほど前に函館を訪れて歴史的建造物が多く残っている西部地区を散策していたとの情報を得ました。



懇親会・広報部会

部会長

蝦名康夫



懇親会と広報部門を担当しました。まずは、ポスター制作のため原案を募集、函館・松山支部管内（道南）の名所・行事などを配した印象度の高かった青年委員の工藤誠さんと石王紀仁さんの案を採用し、基調講演の案内を追加することにしました。本部に印刷を依頼し、完成したポスターを見て、いよいよ大会開催を実感しました。懇親会の余興は、はるばる道南まで足を運んでくださる参加者を如何に歓迎するか、オープニングは景気よく「函館巴太鼓」、そして歴史ある「江差追分（切り声）」、さらに上棟式につきものの餅まきのイメージで「江差餅つき囃子」、60周年を祝って「紅白餅」の振る舞いと決定しました。



今回は、函館市や江差町からの財政的支援もあり、懇親会のシナリオを検討する部会では毎回盛り上がり、当初予定していたプロの司会者から松山支部事務局の室井恵美子さん、サブで両支部青年委員長の高橋真一さん、末吉勇介さんの3名が初々しく挑戦することになりました。

ホテルの料理は、料理長に「地元らしさ」を特別注文し、イカやニシン、地元野菜を使ったメニューとなりました。

全道大会のお楽しみ「各地の名産品」コーナーには、参加支部から日本酒、焼酎、ワイン、銘菓など盛りだくさんの品々のご提供をいただき感謝しております。地元、函館支部からは乾杯用と合わせ「はこだてワイン」、松山支部からは厚沢部町で製造して話題のイモ焼酎「喜多里」を、佐藤久さんの手配で工場から「瓶」まで提供してもらいました。



分科会報告

A分科会

素材～木材～函館・松山編

女性委員会 室蘭支部
吉田幸恵



A分科会では、委員会の活動の一環である『環境と共生する住宅部会』を活性化させるため、一昨年の全道大会に引き続き「素材」をテーマに取り上げ、開催地でもある道南杉に焦点を当て、行政・メーカー・施工側から3名の講師を迎えパネルディスカッション形式の分科会を行いました。行政側からは、渡島総合振興局の喜多氏が、道南杉を含め地元の材料を積極的に採用することで、木材産業を活性化させ、それが森林保全につながるというお話がありました。メーカー側は、(株)ハルキの鈴木氏から道南杉の良さ・塗料選定の留意点や経年変化の話など、また欧州材を移送する際に排出される二酸化炭素が国産材を移送するときに比べ、約100倍であるなど、不勉強な私には学ぶことが多くありました。施工側からは、会員である小池さんより銭函や洞爺湖畔での道南杉の外壁材の施工実績例を報告していただき、「狂いが少ない」「節が少ない」「場所によって塗料の乾きが遅かった」など現場サイドの感想、ユーザーの感想や素材のメリットデメリットを理解してもらう必要性などが話題に上りました。



分科会後のアンケートでは、珪藻土などは採用数が多くあったのですが、「道南杉を知らなかった」「使用したことがない」などの回答もあり、ネットワークの必要性やお客様への情報提供などまだまだ必要であると感じました。コストの問題や入手ルートなど現実的な問題もあると思います。価格だけでは判断されないような価値を伝え、積極的に採用してもらう努力をしたいと思います。地元の材料で建築をつくり、北海道らしい建築を未来に残していくことが、地元の産業や文化を活性化させ、環境保全にもつながるということを改めて学ばせて頂いた全道大会でした。この経験を生かし、女性委員会の活動である『環境と共生する住宅部会』の活動や自分の仕事に深みを持たせたいです。

B分科会

ゆるやかな まち育て

まちづくり委員会 北見支部
島柔美



B分科会は101名の参加をいただきました。「ゆるやかな まち育て」というテーマを設け、午前中に90分のまち歩きをし、午後からは3名のパネラーをお迎えして開催いたしました。

まち歩きは、函館支部会員のガイドで25～30名グループに分かれ十字街から西部地区を中心にタウンウォッチングをしました。

分科会では、

- NPO 歴史的な地域資産研究機構 代表理事で、北海道大学名誉教授の角 幸博さんからは、歴史的建造物の再生・保存活動の中から見えてきた函館の特性と、市民活動についてお話いただきました。
- 函館市教育委員会 教育長、山本 真也さんからは、函館市 都市建設部 勤務時代の話を交え「大火のたびに再生されてきたまちづくり」について都市計画的な視点を加えてお話いただきました。
- ギャラリー ムラオカ代表、村岡 武司さんは、

【函館元町倶楽部】の中心的メンバーです。

倶楽部の活動は、会費、会則、会長、名簿の無い、いわゆるアメーバのような活動が市民活動の基地として「元町倶楽部・函館の色彩文化を考える会」になり、「町屋ペンキ塗り活動」へと広がった事例を述べられ、【函館元町倶楽部】のような曖昧さこそ、まちづくりの新しいスタイルであるとお話いただきました。

3人のお話に通じていたのは、地域への情熱と市民活動への広がり、継続的なまちづくりの大切さであり、今回のテーマでもあります「まち育て」という継続的なまちづくりの実践例として、たいへん意義深い提言としてお聞きすることができました。

パネラーの皆さんのお話をお聞きし、函館という歴史ある都市をお手本とすることで、より身近に、より深く地域でのまちづくりについて学び感じることができました。

3人のパネラーはもとより、協力いただいた函館支部の皆さんにこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。



C分科会

Draw the Future
-歴史的町並みの未来を描く-

青年委員会 釧路支部
前田 繁



8月25日、全道大会（函館・桜山大会）にてC分科会が行われました。今回の分科会は「北海道建築士」（7月号）にも記載させて頂きましたが、前日行われた青年サミットにて函館西部地区のまち歩きをするなかで、未来に残したい建築物の写真を撮り、建物イメージを膨らませ、分科会の題材を自ら見つけ出すことからはじまりました。

さて、当日のお話ですが、HM（ヘリテージマネージャ）とは？について、建築士2012.2月号 スペシャルフューチャー ヘリテージマネージャー特集より抜粋した内容を案内させて頂きました。説明足らずにより、内容…はともかく“HM”の言葉をたよりに、建築士2012.2月号を読んで頂けることを願っております（各支部活動の参考になる内容です）。

次に、青年サミットで見つけた、未来に残したい建築物の写真やコメント（所見）を載せた調査票の作成を19テーブルで行って頂きました。これらは、建物データベースとして今後の活用に生かせる有効な手法ではないかと考えております。引き続き、本題の建物調査票を題材としたリノベーション提案ワークショップへ突入～。

残念ながら討議内容を詳細に書くことは出来ませんが、景観・建物容積を活かした商用用途転用や建物機能向上案、現在緑化された外壁に季節花をデザインする案、バランス・意匠性を確保するための減築案、両側に棟を持ったシンメトリー建物を和風棟、洋風棟にしたアンバランスの中に調和を持たせる案、長屋特有の出入口数を活かした案（まだまだ多数ありますが）など、各テーブル、議論がこちらより飛び交いながらの白熱タイムでした。

当初から懸念されてはいたのですが、やはり持ち時間では消化しきれず、テーブル発表がわずか3テーブルでタイムアップ(泣)。青年委員会としては、各テーブルの魅力あるリノベーション提案を埋もれさせないためにも、北海道建築士会HPにアップしていく予定です。

今回の分科会、参加人数がここ数年で一番多かったのは青年委員としてうれしい限りです。来年は恵庭で全道大会（大会テーマ 庭屋一如）が開催されますが、ご近所お知り合いの建築士をお誘いして頂き、今年以上の参加を期待しています。

最後になりますが、青年サミットに企画を組み込んで頂きました函館支部青年委員会の皆様、参加された皆様、ありがとうございました。

Road to Rebirth
-歴史的町並みの今を歩く-
青年サミットを終えて

青年委員会 函館支部
工藤 誠



去る8月24日。青年サミットが函館市地域交流まちづくりセンターにて行われました。

全道大会の「Rebirth -過去と未来との出会い-」というテーマとの関連性に配慮し、青年サミットのテーマは「Road to Rebirth -歴史的町並みの今を歩く-」、分科会のテーマは「Draw the Future-歴史的町並みの未来を描く-」と、青年サミットでは過去から現在への変遷を知り、分科会では現在から未来への流れを描く、そのような企画としました。

青年サミットの内容は、函館の歴史や現在の状況を会場にて説明し、それを踏まえた上でまちに出、地図と建物の建築的特徴を記したヒントカードを元に目的の建物（用途変更を経て“Rebirth”された古民家カフェなどの建物）を探し、見つけた建物を見学し、その建物に携わる人の生の声を聞き、その中で函館の「今」を感じる、そのような内容としました。そして、その後の懇親会はホテル函館ロイヤルにて「まぐろ解体ショー」を、二次会は大門横丁で飲み歩きイベント「バル街」を体験していただきました。

今大会は建築士会創立60周年の記念大会ということもあり、函館支部青年委員は釧路大会後すぐに会合を開き、約一年かけて準備をしてきました。

サミットの企画を考える初期の段階では、出来るか出来ないかということよりも、「これをやったら最高の大会になる」「これをやったらみんなが喜んでくれる」という「夢」を企画することからスタートしました。

函館らしい歴史的建造物をたくさんみんなに見てもらいたい。夏の函館を観光気分歩いてもらいたい。ブームになりつつある古民家カフェを見てもらいたい。美味しいマグロやイカをみんなに食べてもらいたい。函館発祥のイベント「バル街」をみんなに体験してもらいたい。

最初は「夢」を語り、作り上げていく中で、徐々に「現実」にすりあわせて行けばいい、出来ないことはあきらめればいい、と考えていましたが、末吉函館支部青年委員長をはじめとする支部の青年委員全体が、妥協することなく、「夢」の企画を全部成し遂げようと頑張ってくれました。その結果、大変面白いイベントにすることが出来たと思います。

本当に素晴らしい仲間に出会えたことをうれしく思います。みんなありがとう！そして、この経験を大切に、今後の活動に行かしていきたいと思います。

網走支部

親子で巣箱を
作り取り付けよう！

事務局長

山口 悟



今年度の建築士の日事業では、支部創立60周年記念事業の一つとして、7月7日（土）市内の公園広場において親、保護者と子供たちが一緒に巣箱作りの作業をしながら、それを通して子供たちが野生動物の保護、自然環境の保護に関心を持ち、親子で一緒に共同作業の巣箱作りで、親子の触れ合いを感じて、もの作りの楽しさを体験してもらいました。

子供たち13名参加で保護者含めて約30名、会員15名が参加しました。組み立て、釘を打てるだけの巣箱キットに、日頃もの作りに携わっている会員が親子に釘打ち、組み立てのサポートをしました。

完成した巣箱を会員が脚立を持ってきて、公園の木々に取り付ける作業も会員と親子で行いました。巣箱の取り付け様子を親子で見ている、参加した子供たちは、「どんな鳥が巣箱に入ってくれるのかな…？いつごろ、巣を作ってくれるのかな…？」と親子で話しているのを見て、私たちは活動のやりがいを改めて感じました。来年以降も継続事業として計画しています。

また6月30日（土）に震災復興チャリティビールパーティを開催して、益金を義援金として日本赤十字社に寄付いたしました。

今年度で8回目となる高齢者施設慰問活動として水木ジュンコンサートの支援を続けています。



宗谷支部

「ぼく・わたしの夢の家」
絵画コンクール

青年部長

堀 毅



「流水いかかですか？」と呼びかけて、早10年。宗谷支部のメイン事業として行ってきた流水交流事業。60周年記念号にも載っていますが、諸事情により終了し、私たち青年部は新たな試みへ。

「次どうする？」「子どもを対象に何かやろう！」「絵画コンクールなんてどう？」と、宴の席での勢いから始まったこの事業。

一番の悩みは「作品集まる？」ということです。事業が成功するか否かは作品数が全てなのです。

市教委、校長会、小学校等へと事業内容を説明し、作品応募へのお願いに回り、あとは待つのみ。

結果は「う～ん、微妙」。

残念ながら目標とする枚数には遠く及ばなかったのです。

しかし、応募作品はどれも想像力豊かであり、夢にあふれた絵画ばかり。私たちが建築士を志した「こんな家に住んでみたい」「こんな建物を造ってみたい」という思いを再確認させるものでした。

授賞式にも多くの方々に来て頂き、児童たちの笑顔と、先生から「来年もやるのですか？」との言葉を頂き、今回の事業が無事に成功？で終われたかとひと安心。

今回応募してくれた児童の中から将来の建築士が誕生することを願うと共に、協力頂いた全ての方々に感謝申し上げます。

さて、来年どうする？



当別支部

支部見学会

事務局長

飛山 朋弘



平成24年8月24日土曜日、第37回全道大会 函館・松山大会が開催される朝、当別町を1台のバスが函館市に向けて出発した。

今回の目的は、函館市の五稜郭に見事復元された箱館奉行所と、平成18年に生まれ変わった五稜郭タワーである。日程の都合上五稜郭へは日程2日目の予定で、日程1日目は、函館山からの展望であったが、太陽が眩しいくらいの天気の中、山頂のみ雲がかかり、何も見る事ができなかった。

そのため時間を持って余す結果となり、急遽、参加者の顔ぶれと年齢層を考慮し、北島三郎記念館を見学することになった。偉大な歌手ということは知っていても、普段演歌を聞くことがない自分が、楽しめる場所ではないと思ったが、かなり楽しむことができた。

日程2日目、今回の目的である五稜郭に向かい、箱館奉行所を見学し、復元にあたっての数々のこだわりを驚嘆し、五稜郭タワーからの展望で、前日のリベンジを果たすことができた。帰りのバス中、エアコンが故障する等、アクシデントもあったが、良い研修をすることができたと思う。

帰宅後、北島三郎の「まつり」が、無性に頭から離れなくなり、知らない間に口ずさんでしまい、家族に気味悪がられてしまった。



復元された箱館奉行所

総務委員会

委員長
宮原 進 (旭川支部)



第37回全道大会（函館・松山大会）が盛会裡に終える事ができました事にお礼申し上げます。

この間、1年以上に渡り準備をすすめてこられた函館・松山支部の会員の皆様には心から敬意を表します。

また、当日お手伝い頂いた総務委員の皆様、大変お疲れ様でした。

さて、全道大会も終わり、北海道建築士会としても大きな事業は一段落というところですが、これからは新法人への移行に伴う作業が詰めの段階に入りますし、懸案であります会員増強についても、先の理事会において「会員増強特別委員会」を組織して取り組む事が承認されました。

この特別委員会は、連合会が進めております運動に連動するもので、全国47建築士会が同時進行で展開するものです。

委員会の構成は高野会長を始め4副会長、総務、青年、女性の各委員長の8名構成になっており、今後開催されます各ブロック会とも連携しながら、総務委員会といたしましても、積極的にかかわらなければならないと考えております。

会員拡大について、ブロック会はもとより各支部とも連携しながら進めていかなければなりません。特効薬があるわけではありませので、会員一人一人が不断の地道な行動を行う事によって、その道が開けてくるものと思っておりますので、会員皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

この夏は全国的に猛暑が続くなど、北海道でも9月になってから真夏日が続くなど、異常気象で夏ばて気味の会員も居られることと存じますが、最近になってようやく本来の陽気が戻って参りました。

季節の変わり目は体調を崩すことがありますので、会員の皆様にはご自愛いただき、ますますご活躍下さいませよう祈念申し上げます。



松崎常務理事と総務委員の面々

事業委員会

副委員長
内海 純一 (札幌支部)



7月7日（土）・8日（日）の二日間、本部会議室において一級建築士学科の受験者講習会を開催しました。7日午前中に計画と法規の2科目、午後は環境設備、8日は構造と施工の2科目を行いました。

先に予定としてご報告した通り、環境設備については講師を設備設計一級建築士の方に依頼し、2時間の講義を受けて頂きました。他の科目は委員会及び担当常務で分担して実施しました。

各講師の方が時間を掛けて作成したオリジナルの模擬問題は本試験を終えて見ると関連した設問が多々あり、当委員会内では来年の講習会受講者募集時にアピールすべきとの声も上がっています。

講師のみなさんには多くの時間と労力をかけ準備等を頂き有難うございました。また、今年までの受講申し込みについては全科目一括の申し込みとしていましたが、来年以降科目毎の申し込み等を含め、会員の方々の利用しやすい講習会のあり方についても検討してまいりたいと考えています。

今年の受講者数は会員・非会員合わせて8名と計画を下回ってしまいましたが、来年は多くの方へ参加をお知らせしたいと考えています。

さて、今年で55回を終えた寒地建築技術講習会は、開催方法等についても各支部さんへ依頼したアンケートに基づき事業計画案を纏めると共に、来年のテーマ設定をほぼ完了しテキスト作成に入っています。

基本テーマとしては建築士をはじめとする建築技術者が日ごろの業務において、「お得な情報」「便利な情報」「幅広い知識」「最新かつ高度な知識」題材に取り入れた構成で進めています。

北方建築総合研究所・林産試験場さんへ依頼済みの項目の他に建築確認申請や適合判定のポイント、建築現場の法律について等も取り込む予定です。

開催会場や支部、開催日程等、今後の調整事項も多く有りますが、多くの皆さまが興味を持って参加して頂ける内容を目指し中野委員長の下、更なる工夫をしながら年内完成に向け作業を進めています。

平成24年度 建築士定期講習ご案内

平成21年度に第1回を修了された方は、今年度が更新の受講年度となります。

〈受付期間〉 第四期 ～平成25年1月18日

定員に満たない場合は、延長する場合があります。

	開催地	開催日	講習会場及び所在地
第四期	苫小牧	平成25年2月19日	苫小牧市民会館
	札幌	平成25年2月24日	かでの2・7

平成24年度 応急危険度判定認定講習会のご案内

今年度も下記日程で開催予定しております。詳細はHP (<http://www.h-ab.com/>) をご覧ください。

開催地	開催日	会場名
帯広市	平成24年11月8日	十勝総合振興局
網走市	平成24年11月9日	オホーツク総合振興局
室蘭市	平成24年11月14日	胆振総合振興局
函館市	平成24年11月21日	渡島合同庁舎
浦河町	平成24年12月14日	日高振興局
釧路市	平成25年1月22日	釧路市生涯学習センター
根室市	平成25年1月23日	根室振興局
札幌市	平成25年2月未定	未定
苫小牧市	平成25年2月1日	苫小牧市 職員会館
旭川市	平成25年2月6日	上川総合振興局
稚内市	平成25年2月13日	宗谷合同庁舎

※各会場とも15日前まで受付しております。定員に満たない場合は、当日受付も行います。

申込受付：(社)北海道建築士会本部

※申込用紙は、HPからもダウンロードできます。

C P D 認定プログラム (10月認定)

◆B I Mに関する勉強会

〈日程及び会場〉 11月16日(金) 13:00~16:00
かでの2・7 (札幌市)

〈単位数〉 3単位

〈問合せ先〉 社団法人北海道建築士会札幌支部
TEL 011-232-1843
<http://www.hks-hp.net>

◆地震防災セミナー in新ひだか

〈日程及び会場〉 11月20日(火) 13:00~16:30
新ひだか町公民館 (新ひだか町)

〈単位数〉 3単位

〈問合せ先〉 新ひだか町役場 建設課
TEL 0146-43-2111 (内線269)

北海道における木造住宅の生産体制強化に向けて 住宅省エネ施行技術者講習会のご案内

地域における木造住宅の生産・維持管理体制を将来にわたって継続させるとともに、これらを取り巻く関連事業者を「地域産業」の柱として育成していくため、国土交通省は「住宅省エネ化推進体制強化」に取り組み、地域の中小工務店が手掛ける木造住宅の信頼性や省エネ性能の向上を図ることとしています。特に、新築住宅の省エネ適合率を平成32年度までに100%とするためには、中小工務店等の省エネ施工技術の向上が不可欠です。

つきましては、本道において木造住宅の施工・管理に関わる大工技能者等を対象にした「住宅省エネ施工技術者講習会」を下記の通り開催致しますのでご案内申し上げます。
※北海道建築士会は主催である建築生産体制強化推進協議会の加盟団体です。

開催地	開催日	会場名
北見市	平成24年11月7日	北見芸術文化ホール
室蘭市	平成24年11月12日	室蘭市中小企業センター
函館市	平成24年11月16日	サン・リフレ函館
稚内市	平成24年11月21日	稚内建設会館
釧路市	平成24年11月28日	道東経済センタービル
帯広市	平成24年11月30日	帯広経済センタービル

申込・問合せ：北方型住宅ECO推進協議会

TEL 011-864-8580 FAX 011-864-6321

※本会HP (<http://www.h-ab.com/>) でも案内しております。

編集後記

今年は残暑が厳しいなんてことを言っていたら、秋の気配もそこそこもう冬が目前です。北海道は電力消費が夏よりも冬が多くなるので、節電対策に苦勞する予感…

さて今月は第37回全道大会(函館・松山大会)の特集です。大会を運営していただいたスタッフの方々は大変お疲れ様でした。大会に参加された会員の方はこれを見て感動を思い出し、参加できなかった方は、この記事で雰囲気を感じてもらい、次の大会に参加していただけたらと思います。

情報委員会 岡田光弘

情報委員会委員長/岡田 隆
副委員長/三浦 浩・天城 秀典・神田 光英
委員/森田ゆう子・岡田 光弘・山下 聡
用田 史門・高松 徹・道塚 勉

北海道建築士 No.183号

印刷 平成24年10月/発行 平成24年11月

編集・発行 社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番